

## ■ 概況

8/6~8/19のNYMEX・WTI先物市場は、41.22~42.93ドルの範囲で推移した。

8月20日は、19日のOPECプラス閣僚監視委員会が減産の継続と違反増産国への追加減産を確認したものの、米国新規失業保険申請件数の増加、フィラデルフィア連銀製造業景況指数の悪化を受けて、反落した。9月限終値は前日比0.35ドル安の42.58ドル。

週末21日は、ドル高進行に伴う原油先物の割高感、米政権と議会の追加経済対策の交渉難航、内戦中のリビア暫定政権の停戦発表等から続落した。米国稼働石油掘削機は183基と前週比11基増加、米国の原油生産回復が意識された。この日から期近物に繰り上がった10月限の終値は前日比0.48ドル安の42.34ドル。

週明け8月24日は、発達中の2つの熱帯低気圧がメキシコ湾に接近し、沖合原油生産設備や沿岸製油所の操業への影響が懸念されていることから、3営業日ぶりに反発した。10月限終値は前週末比0.28ドル高の42.62ドル。

25日は、熱帯低気圧はハリケーン「ローラ」に発達、メキシコ湾岸の大規模石油施設の操業休止が相次ぎ、原油供給の一時的削減が意識され続伸、一時は約5か月ぶりの高値を記録した。10月限終値は前日比0.73ドル高の43.35ドル。

26日は、ハリケーン「ローラ」接近に伴う多くの湾岸沖合石油施設・製油所の操業停止、米国エネルギー情報局(EIA)の週報の先週末原油在庫とガソリン在庫の減少から、わずかに値上がりした。10月限の終値は前日比0.04ドル高の43.39ドル。

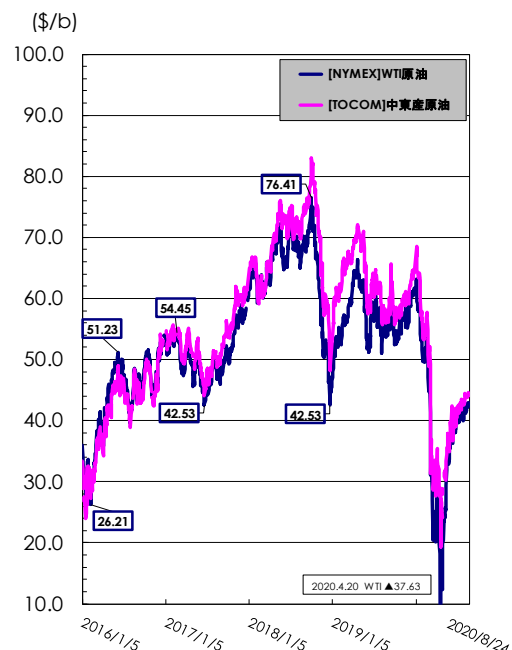
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は8月6日~19日の間43.60~44.30ドルの範囲で推移した。8月20日43.70ドル、21日44.00ドル、24日43.70ドル、25日44.20ドル、26日44.90ドルと推移した。

為替は8月6日~19日の間105.19~106.98円の範囲で推移した。8月20日106.09円、21日105.70円、24日105.80円、25日106.01円、26日106.46円で推移した。

財務省が8月19日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、23,636円/klで、前旬比1,822円高、ドル建て35.04ドルで前旬比2.76ドル高、為替レートは1ドル/107.23円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、7月月間の原油輸入平均CIF価格は、22,055円/klで、前月比5,517円高、ドル建て32.70ドルで前月比8.30ドル高、為替レートは1ドル/107.22円。

そのような中で、8月24日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油は同0.1円の値下がり、灯油は横ばいだった。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週連続の横ばいだった。この週(8月第4週)の原油コストはわずかに値下がり、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比据え置いた。

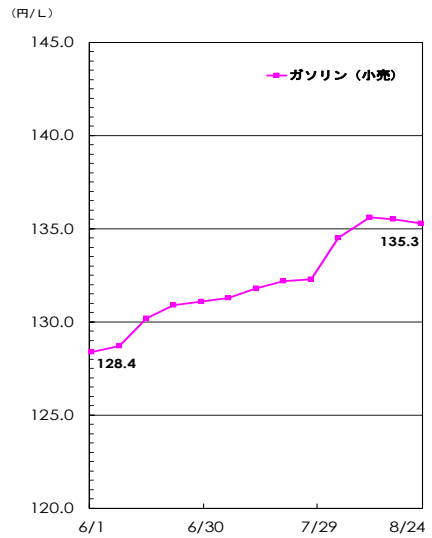
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	8/16 ~ 8/22	2,762 ▼ -51	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	70.5 ▼ -1.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	8/22	13,095 ▲ 85	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	8/24	44.22 ▲ 0.38	▼ -12.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	8/24	42.62 ▼ -0.27	▼ -11.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	7月下旬	35.04 ▲ 2.76	▼ -32.28
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	23,636 ▲ 1,822	▼ -22,095
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.23 ▲ 0.20	▲ 0.76
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/24	106.80 ▲ 0.75	▼ -0.72



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/16 ~ 8/22	891 ▼ -48	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	857 ▼ -13	▼ -	
	輸出	"	38 ▲ 13	▼ -	
	在庫	8/22	1,789 ▼ -4	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/18 ~ 8/24	44.3 ▲ 0.5	▼ -11.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/18 ~ 8/24	39.7 ▼ -0.9	▼ -11.8
		(TOCOM/中部)	8/24	41.5 ▼ -0.3	▼ -12.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/24	135.3 ▼ -0.2	▼ -8.2	

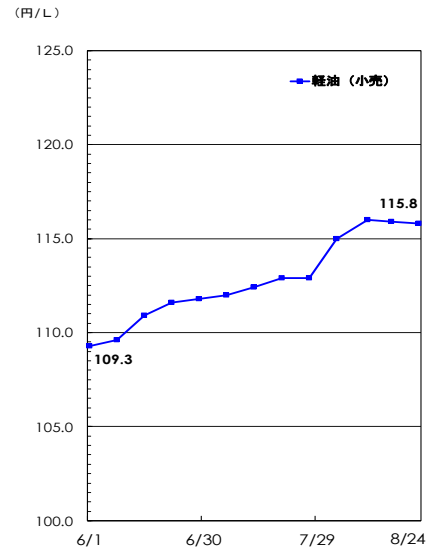
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

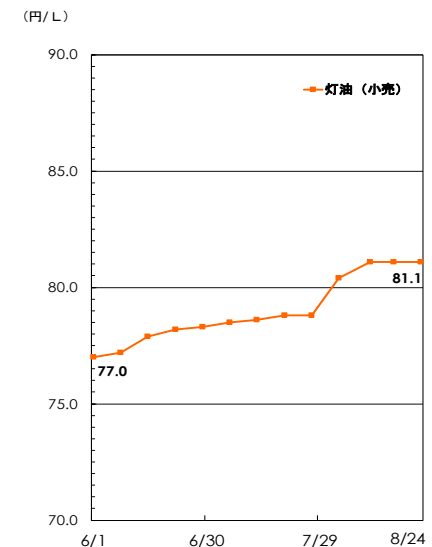
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/16 ~ 8/22	578 ▲ 6	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	541 ▲ 191	▼ -	
	輸出	"	5 ▲ 1	▼ -	
	在庫	8/22	1,867 ▲ 32	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/18 ~ 8/24	46.9 ▲ 0.2	▼ -11.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/18 ~ 8/24	48.5 ▲ 0.1	▼ -11.5
		(TOCOM/中部)	8/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/24	115.8 ▼ -0.1	▼ -9.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	8/16 ~ 8/22	250 ▲ 62	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	56 ▲ 26	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	8/22	2,392 ▲ 194	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/18 ~ 8/24	46.9 ▲ 0.1	▼ -10.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	8/18 ~ 8/24	42.1 ▼ -1.4	▼ -13.0
		(TOCOM/中部)	8/24	44.5 ▼ -0.4	▼ -11.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/24	81.1 ➡ 0.0	▼ -9.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

8月26日のNYMEXのWTI先物原油は、大型ハリケーン「ローラ」接近に伴う多くのメキシコ湾岸沖合石油施設や製油所が操業停止していること、さらに、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、先週末原油在庫の前週末比470万バレル減少と市場予想(370万バレル減)を上回る5週連続の取り崩し、ガソリン在庫も460万バレル減少と市場予想を上回る取り崩しとなったことから、わずかに値上がりした。ただ、コロナ感染再拡大による需要回復への懸念も根強く上値は抑えられた。10月限の終値は前日比0.04ドル高の43.39ドル、11月限の終値は同0.04ドル高の43.69ドル。

ル。

EIAによると、8月24日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.6セント値上がりの1ガロン2.182ドル(61.5円/ℓ)、ディーゼルは同0.1セント値下がりの2.426ドル(68.4円/ℓ)となった。ガソリンは3週ぶりの値上がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年8月16日～8月22日に休止したトッパー能力は35.1万バレル/日で、前週に対して8.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は276.2万klと、前週に比べ5.1万kl減少。前年に対しては64.7万klの減少。トッパー稼働率は70.5%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては16.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/5.1%減、ジェット/10.2%減、灯油/32.9%増、軽油/1.1%増、A重油/0.1%減、C重油/49.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は0.5万kl(前週比0.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.7万kl(対前週1.6%減)と2週振りで減少となった。ジェット8.4万kl(対前週8.5%増)、灯油5.6万kl(対前週84.8%増)、軽油54.1万kl(対前週54.3%増)、A重油17.3万kl(対前週35.5%増)、C重油13.3万kl(対前週35.8%増)。

(単位:千KL)

	今週 (8/16 ~ 8/22)	前週 (8/9 ~ 8/15)	前週比
ガソリン	857	870	▼ -13 (-1%)
ジェット燃料	84	78	▲ 6 (8%)
灯油	56	30	▲ 26 (87%)
軽油	541	350	▲ 191 (55%)
A重油	173	128	▲ 45 (35%)
C重油	133	98	▲ 35 (36%)
合計	1,844	1,554	▲ 290 (19%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月22日時点の在庫は、ガソリン、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはジェットが減少となり、その他の油種で増加となった。

ガソリンは178.9万kl、前週差0.4万kl減。前年に対しては29.4万kl多い。

灯油は239.2万kl、前週差19.4万kl増。前年に対しては13.4万kl多い。

軽油は186.7万kl、前週差3.2万kl増。前年に対しては16.2万kl多い。

A重油は69.9万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては0.5万kl多い。

C重油は188.7万kl、前週差4.8万kl増。前年に対しては1.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (8/22)	前週 (8/15)	前週比
ガソリン	1,789	1,793	▼ -4 (-0%)
ジェット燃料	779	738	▲ 41 (6%)
灯油	2,392	2,198	▲ 194 (9%)
軽油	1,867	1,835	▲ 32 (2%)
A重油	699	728	▼ -29 (-4%)
C重油	1,887	1,839	▲ 48 (3%)
合計	9,413	9,131	▲ 282 (3.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月18日～24日の原油価格は前週比でほぼ横ばいであったが、為替レートはわずかに円高で、円建ての原油コストはわずかに値下がりであったと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、前週比据え置きとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月18日～24日の製品スポット市況は、8月11日～17日平均と比べ、ガソリン先物、灯油の海上と先物の値下がり、軽油海上の横ばいを除いて、他の取引・油種で値上がりとなった。

直近(8/18～8/24)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(8/11～8/17)比で、ガソリンは0.5円の値上がり、灯油は0.1円の値上がり、軽油は0.2円の値上がりだった。直近(8/18～8/24)において、ガソリンは97～98円台で値上がり後横ばい、灯油は46～47円でほぼ横ばい、軽油は46～47円台でほぼ横ばいで推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(8/18～8/24)に、前週比で、ガソリンは0.4円の値上がり、灯油は1.0円の値下がり、軽油は横ばいだった。海上スポット価格は、同期間(8/18～8/24)に、ガソリンは99円台で値上がり後ほぼ横ばい、灯油は40～41円台で値下がり、軽油は48円台で横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は1.4円の値下がり、軽油は0.1円の値上がりだった。先物価格は、同期間(8/18～8/24)に、ガソリン93円台で出入り後わずかに値下がり、灯油41～42円台で値下がり後大きく値上がり、軽油48円台でほぼ横ばい後値下がり後で推移した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (8/18～8/24)	前週 (8/11～8/17)	前週比
	レギュラー	44.3	43.8
灯油	46.9	46.8	▲ 0.1
軽油	46.9	46.7	▲ 0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (8/18～8/24)	前週 (8/11～8/17)	前週比
	レギュラー	39.7	40.6
灯油	42.1	43.5	▼ -1.4
軽油	48.5	48.4	▲ 0.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/18～8/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.5	▼ -0.9	▼ -0.2
灯油	▲ 0.1	▼ -1.4	▼ -0.7
軽油	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 0.1
A重油	▲ 0.2		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

8月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(8月17日)比0.2円安の135.3円、軽油も同0.1円安の115.8円、灯油は18%ベースで横ばいの1,459円(1%ベースでは同横ばいの81.1円)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は3週連続の横ばいだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは14府県、横ばいは4都県、値下がりが29道府県となった。全国最安値は徳島県の128.4円(前週比A横ばい)、その次に安いのが宮城県129.4円(同0.2円安)、最高値は長崎県の145.1円(同0.4円高)。最も値上がりしたのは、同1.0円高の沖縄県(141.2円)、横ばいは東京都他3県、最も値下がりしたのは、

同2.6円安の福井県(139.7円)だった。今週(8月18～24日)は、原油価格はわずかに値上がりで、為替レートは円高で、円建ての原油コストはわずかに値下がりしたと見られる。次週(8月27～9月2日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きとなった。次回調査時(8月31日)のガソリンの小売価格は、小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (8/24)	前週 (8/17)	前週比	直近高値
レギュラー	135.3	135.5	▼ -0.2	08/8/4 185.1
灯油	81.1	81.1	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	115.8	115.9	▼ -0.1	08/8/4 167.4

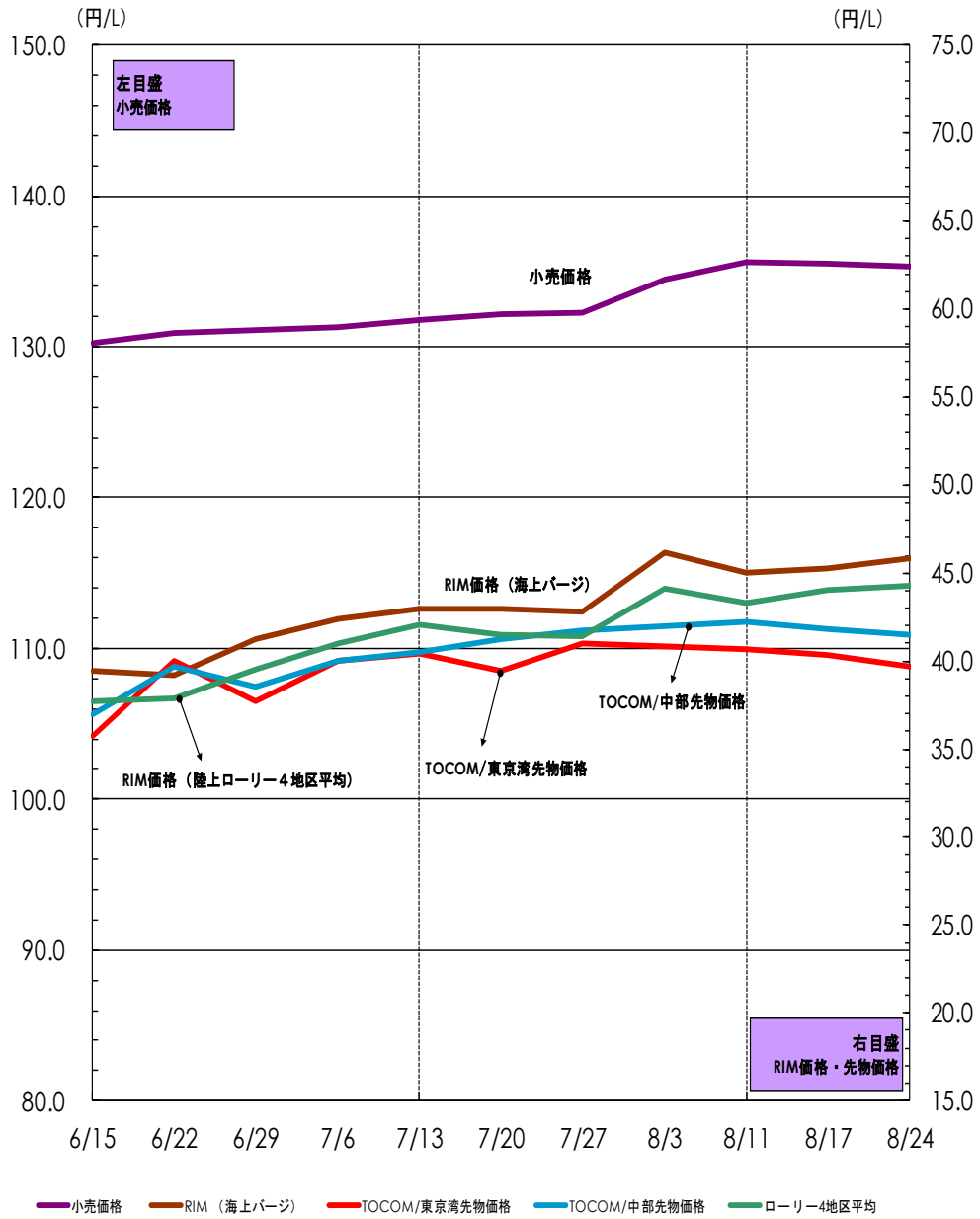
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/6/15 ~ 2020/8/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第10号)の公表は、9/4(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。